

1. コッカースパニエル 7歳 メス 体重 10kg
主訴：3日前より腹部膨満、元気食欲の低下



血液検査

WBC:	11,300/ μ l
PCV:	45 %
ALT:	156 U/L
AST:	85 U/L
ALP:	312 U/L
GGT:	7 U/L
Alb :	2.2 g/dl
T-Chol:	186 mg/dl
T-Bil :	0.2 mg/dl
NH ₃	93 μ g/dl
TBA	138 μ mol/L
PT	7.35 sec (6.0-8.5sec)
APTT	17.6 sec (10.5-16.5sec)
ATIII	81% (>80%)
BCAA	176 μ mol/L (>400)
TYR	49 μ mol/L (<50)



肝臓の腹腔鏡所見

肝臓の病理組織診断名

コッカースパニエル肝症

治療

手作り食（タンパク制限、低ナトリウム食）

ベジタブルサポート Dr プラス 5g TID

ウルソ 10mg/kg BID

SAMe 200 mg/head SID

亜鉛製剤 5mg/kg BID

治療経過

項目	初診時	1か月の栄養療法で	4週間後	単位
	BW 10.2 kg		BW 8.8k g	
Alb	2.0		2.3	g/dl
TP	6.0		6.2	g/dl
BCAA	176		205	mmol/L (>400)
TYR	49		86	mmol/L (<50)
腹水	あり		なし	sec (6.0-8.5)

治療の Point !

BCAAの補充を目的にベジタブルサポート Dr プラスを投与。腹水が貯留しているため、低ナトリウム食を指示したが、嗜好性に問題があったため手作りフードでナトリウム制限を行った。ベジタブルサポート Dr プラスには塩分が全く含まれておらず、野菜の甘みや椎茸の風味があるため、ナトリウム濃度が低くても嗜好性が高く、動物は喜んで食事を摂取するようになった（食欲の改善）。

治療開始 2 週間は利尿剤を併用したが、その後は利尿剤を使用することなく、腹水のコントロールが可能となった。アルブミンの上昇はあまり認められなかったが、低下せずに維持することが可能となった。この症例は6ヶ月後に亡くなったが、その後も利尿剤を少量併用することで腹水のコントロールは非常に良好に保て、最後までアルブミンは 2.0g/dl 以上は維持できていた。亡くなる直前まで食欲があり、QOL を維持することは可能であった。

※記事・写真の無断転載を禁じます。